



テレビはいつだれが**はつめい**したの

きめることができない

え しゃしん でんき しんごう か とお おく ぎじゆつ せいき なか かいはつ
 絵や写真を電気の信号に変えて、遠くへ送る技術は、19世紀の中ごろに、開発されまし
 た。また、少しずつちがった画像を、次々に見ると、連続して動いている像として、見るこ
 とができる、ということもわかっていました。

いま 今のようなテレビができるまでには、いろいろな国の人々が研究し、改良を続けてきたの
 で、だれがテレビを**はつめい**したのか、ということは、きめることができません。

1933年、今のテレビに近いものが**じつよう**

おおよそ70年前、イギリスのベアードという人が、初めて、テレビらしいものを作りました。
 これを作るのに、そのころに**はつめい**されていた、**こうでんかん**が役に立ちました。

こうでんかんは、光の明るさや暗さを、電気の流れの強弱に変える機械です。ベアードは、
こうでんかんを使ってテレビができないか、と考えました。

ベアードが作ったテレビカメラは、たくさんの穴があいた、丸い円ばんを回転させ、入っ
 てくる光を、後ろに置いた**こうでんかん**で電流に変えて、はなれたテレビに**おく**
 になっています。今のテレビとは、似ていませんが、光の点を走らせて、画像を作るとこ
 ろは、今のテレビに生かされています。

現在のように、きれいにうつるテレビができたのは、1933年に、アメリカのツウォル
 キンが、**アイコンoscope**という、テレビカメラの重要な部品を、**はつめい**
 する機会に、テレビが、**じつよう**されるようになりました。また、日本では、**たかなぎけんじろう**
 ブラウン管を使った、テレビの実験に初めて成功しました。(監修・青木 国夫)

